

# 1)文化観

## 1-1 生滅と取捨選択

何を取り上げるか、同時に何を捨てるか、生滅不可分の因果が生じる。この感覚が弱まると粗末な表現と生を作る性格が進む。緊張と緩和の狂った肥満や傲慢、犯罪や病理という質感が増す。

## 1-2 根本と全体と部分

価値の優先性はどのようにあるか。因果の総体を問い全体と部分の相関を示し自他との良性を求める態度が進む。健全な根本の所在を見る。

羅列的、部分的、断片的な表現は、健全な根本性と自律性を欠いた不良の心象が生まれる。価値の序列感に正常性があるか。あまりに常人と外れた歪性は正より負のエネルギーを広げる。

## 1-3 見識・概念、資源流通と仕組の持続

因果の総体について見解を纏め見識性を整え、内外との理解と納得、共感性に至り情報を伝達する資格や免許、認可を授け運用と検証の持続的仕組みにあつて資源流通の適正な周期と体系の持続性を遂げる。

## 1-4 見識・概念・知識・政策・技能

天然資源、商品や技能、人材、金融、情報、知識や概念、見識という資源と相関の因果と領域観や世界観が構成される。見識という価値の総体性が土台性にあり、他の要素の割合や序列性が生まれる。

## 1-5 標準観念と対象選定観測評価予測施策検証改善持続

対象の広狭深淺という範囲性の想定と、効果や価値性の特定と標準観を備えながら、対象の選定観測評価伝達を生む。考えが乏しく気ままな選択と粗末な生の不快が増す。力の暴走、資源流通に欠陥が起こる。

## 1-6 計画と専門、市場と自由

管理監督作用は行政組織において担うか、市場性という個々の選択に委ねて事実上の需給を構成するか。計画性と専門性、市場性と自由性、

## 1-7 政治と行政

行政に権限を与える政治性が前段にあり意思形成と取り纏めの民主的手順と工程が備わる。広く市場性を有し価値と序列の提起と選択。

## 1-8 部分性の訴求と偏り、良い点を訴求

あまりに部分的な提案に留まり、全体性の思慮を欠き短絡の効果を訴求し、票を集める選挙が慣習化すると粗末な政治性、空疎な政治性、行政の歪性、健全な仕組みの停滞に陥る。

## 1-9 公私性、形式と実態

各種資源流通を適正に管理監督する作用に反映される。特定の利益性と裏取引、富の偏った社会性と領域性、地位の固定性、動静不良という生命と領域の不健全性が生まれる。表向きの公共機関という構えを持ちながら、実際は私的性の強まる運用が広がる。法制度はごく限られた対象の利益に働く内容を固定化し健全な創造の習慣を病ませる。

## 1-10 価値の全体性、抽象・準抽象・具象、

堂々と真理性を問い作る発想と思考が減退し、価値と全体性の歪化した序列性を招き、根本性の瘦せた生命を表す。領域の性質が作られる。基準性の明示と公平な運用のかけ離れた歪性を広げる。

## 1-11 教育研究性、経済観念、不動と変動性

政治性に、創造力を提案する教育研究作用が良好に出現し価値観や世界観に適正と確信が増し、概念体系を備え時々の変動に対面し不動に向けた政策を絞り、技能形成と活用に戻る全体と大局観を生む。この観点と文脈を簡潔に纏め理解と納得共感を作る働きを必要にする。全体大局が見えず、部分に偏る訴求に歪性が起こる。

### 1-12 小細工性・欺き、怠慢、寡占、権利と義務の適正

妙な小細工性の装飾や作為に外れ、堂々とした創造力が減退し領域の生命力を病ませる文化性として領域の性質が浮かび上がる。根本且つ全体大局性という観点が弱まり、一過的欺きの態度と性格が広がる。

### 1-13 歪な抽象観念運用、生の痩せ細り、体系と周期の歪化

生と根本の痩せた生命観、人格観、生態観、文化財や文化観念に陥り部分性の歪性を増す。歪な教育、経済、政治、行政、産業、技能という様子が表面化する。根幹的基軸の痩せ細った性格の創造体系と領域性が生まれる。

### 1-14 文化観

宗教性は矛盾性から思考と概念、世界観、理念の形成という産出を生み、教育経済という側面に外形化される。時々の観測と評価予測性を通し制御性と具体の施策を投じる完結的一巡の体系と周期の領域性が浮かび上がる。この全容性に文化なる概念を得る。生の健全と持続の領域性を観測する標準観と過不足の観点と運用を遂げる。

## 2)基礎と専門の相関

### 2-1 特定現象

自衛隊を国防軍にして戦えるようにする論理を進める事もあって良い。しかし、この物理的な因果と強弱の潮流を無思慮的に進行させることに偏った感覚は健全な生と世界を危うくさせる。

### 2-2 根本観点

そもそも「生命とは人間とは」という根本性の思慮をもって軍事と戦争という観点のみならず、感性と概念と精神と身体の適正な在り方を土台性に引き出し、根本性に不動性の基準を整えあらゆる対象の想定と運用を行う包括性の世界観を枠組性にして創造の大系を構成する。

### 2-3 包括の枠組

根本且つ包括の枠組を欠き軍事面に偏って憲法を改正する態度には、自律を失った受動反応と力みの激しい歪性を伝える。基礎土台の脆いまま物的力の依存と支配従属の態度は正常を欠いた危うさを感じる。

### 2-4 物理受動と制御不能性

根本原理の見解が定まらず、物的要素を強化し対抗的な体制を整備するのは不健全性を見る。喫緊的な課題への応急的な措置として必要性の認識が生じると共に、根本性や土台性の適正観の認識が弱いままであると生の根本的歪性の変容に籠のかからぬ制御不能に陥る。

### 2-5 犯罪性とは、本質性は

盗みや詐欺、暴力という犯罪性の認識を問い犯罪とは如何なる事か、根本的な面から本質性を掴み、歪化した経済活動に映る犯罪性の観測を含めながら、根本且つ全体大局の枠組を作り個別特定現象の性格付けや配置を与える体系と周期と持続の包括的な創造体系が要る。

## 2-6 一貫性

場当たりの対応に偏らぬ、根本且つ包括の大系を築き個別特定を配する抜本的な創造を構築する態度に健全な創造基調を形成する。戦うことが出来るように憲法を改正する観点は偏狭化した改善策にあり我を忘れた制御不能に陥る懸念が増す。健全な主体や独立という見解が弱く物理受動の反応が増す姿は正常な生命と人間性を減退させる。

## 2-7 根本且つ全体大局の概念

「生の原型性、活動法則性、学問体系、創造の包括観、成長過程論、動静観、不動と変動、」という根本且つ包括性の概念を基礎科目性に導出し国家と憲法という特定専門性に対峙し適正を模索し作り上げる構造性があって歪な専門や特定に陥らぬ自律的制御を実現する。基礎性の科目が脆いまま、部分最適と特定性を作る歪性が生じる。

## 2-8 物理強弱、相対の対立性

根本且つ全体大局の観点が無く部分性を扱う事は標準性と過不足の適正な制御を失った性質が進む。普遍的不変の要素が乏しく相対の物理強弱と受動の反応を作る態度は人格不在の病理質を広げ深める。

## 2-9 基礎と専門

国家と憲法という特定対象を限定し最良を図る前段には生命や人間という根本且つ全体大局の観点と見解を必要にする。小手先性の作為に留まらぬ抜本性の創造を基軸根幹に持ち部分性の適正が作られる。歪化した専門性に陥らぬ構造と性質を実現する。縦割り分断、部分最適の弊害を抑え歪な右翼左翼という両極の不良に陥らぬ生命と主体性と領域性を実現する。肥満や未成熟が主導を握るとお粗末な作為に箍がかからず受動反応が増し正常な自律や良好な牽引を喪失する。

### 3)具象的観点、実践性

#### 3-1 歪な個別特定現象

技術を悪用し財を取得する技術産業性、盗み詐欺暴行という犯罪性の作をもつて生や財を略奪する経済、意図する概念性が定まらず部分最適や専門性を進行させる教育、基準の形成と明示が乏しく、観測と評価と施策を投じ検証と改善の希薄化した政治、洗脳、扇動、虚構、生命活動の歪化した宗教、感性と概念と精神と身体の断片化した活動習慣と文化、技術経済教育政治宗教文化、犯罪性や病理的な活動習慣。

#### 3-2 意思形成と執行

個々に一票を与え意思を表明できる民主性、特定対象の意思を絶対性にしてそれに従う専制性という意思形成と執行の形態を生む。どちらかという「どのように」という方法性の側面を生む。「なぜ、何を」という理由と主題にある程度の同一性が定まり方法の最良に及ぶ。

#### 3-3 結果と過程と習慣

民主や専制なる概念の前段性に適正があり、方法の適正を加え結果と過程、静態と動態の良好な習慣と性質を形成する。意図や目的性が歪であると、方法性は暴力性に陥る。内面内心と外形性と内外性、思想性と世界観と活動性の観点と中身の相関を生む。

#### 3-4 根源と根幹と産出、体系と周期と持続、適正な枠組性

心理情動と生物物理と言葉や概念思考と神経と精神の良好な在り方を問い、生の原型や理想を根本に求め対象と運用の創造を生む。生滅不可分という根源の感性が起源に作用し根幹を作り個別特定全体という産出を想定し意図と方法と検証と改善の持続する大系を生む。

根本性に不動性を浮かべて、対象性の想定と運用の一貫する縦横の整合した直接間接の因果の総体と周期性を世界観に構成し、運用する創造観が作られる。根本性や基礎性の適正の上に、全体と大局の適正が起こり、個別特定の適正に回る。

### 3-5 根本と基礎と具象と準抽象と抽象

身近な活動において犯罪性や病理性を作りながら、戦争反対、平和主義という抽象理念を訴求し欺く。言う事とやる事の整合が弱く活動の歪みに文化の崩れが表面化する。変わらぬ良好な生と活動の適正観を根本性に引き出し、あらゆる対象に共通する基準性をもって具象と準抽象と抽象の整合を求め作る体系と周期の集約観を産む。

### 3-6 万人的同一性

万人的同一の世界観に揃い、あまりに崩れた歪性に陥らぬ正常性と定常性を作る文化を遂げる。生の健全と持続、永続思想と世界観、主体性学として領域の基礎や中枢と根幹、全体大局を纏めた特定観を産む。

### 3-7 人物と概念、経験と理論、歴史と理論、動静

「誰が」という要素を先んじる様子には健全性が映りづらい。名や静の固定と過剰は動静不良に及ぶ。動態過剰と静態過剰という両極の歪性を生む。概念の偏りは虚構が増す、人物の強まりは歪な固定に働く。人物と概念の適正を作る。

### 3-8 自立と協調

特定人物を神のごとくに祀る姿は思考停止や過信にならぬか。特定人物の諸条件と他の対象は同一性になく十人十色の個別性がある。成功者と言われる人と同じことをやっても結果性は必ずしも一致しない。概念的な不動性と個別性の相関を生む。抽象理念には同一性が増し具象性に相違を生む。利己性の激しい独立、媚びる拝むの調和性、歪な同化に陥らぬ制御を生む。自立と協調の適正な主体性と領域性が進む。

### 3-9 依存の強まり、自立と協調の崩れ

依存の強まりは一方向の要望を強める不平等性を生じさせる。力の格差に危うさを招く原因が起こる。ストック過剰とフローの停滞という不健康な生命と習慣が進む。一か所に依存を強めることのなき分散を発想し、健全な相互性を作り出せる構造を意図し思考と作為を生む。「権力は腐敗する」

という経験則と教訓が引き出され変わりづらい長期性の原理に作用する。感性と概念と精神と身体の良い相関に不動性を見て歪な変動として、力の偏った依存と従属の歪性が浮かび上がる。依存の強まりは健全な感性を喪失した感覚過剰の物理因果性が高まる。自立と協調、緊張と緩和の適正を崩した様子が現れる。変わりづらい生命人間の適正像を普遍的不変の真理をもって対象の想定と適正化の作為が回る長期法則が作動する。

### 3-10 道具や装置の依存と根本性の破壊

情報技術力を用い、個々の対象を監視し歪性を事前的に察知し、除去するなどという対策を図る政治性は、如何なる心象を生むか。高度な技術力に依存を増し対象の人格性の尊重という要素を省き、権力や財力、技術への依存を強め、領域の統治を図る歪性を生む。感性と概念と精神と身体の良い相関の崩れた不良を感じないか。道具や装置の活用に適正が有るか。歪化した地位の固定化に作用しないか。肥満な権力性、物理依存の激しい経営や政治性は分散と破壊、不明瞭と不公正、負の循環を広げる。無機質合理化した金狂いの経営や政治、教育宗教性を伝える。宗教哲学の病んだ科学と技術と文化が現れる。肥満な成長過程や拝金主義と機械性の秩序を強めた病理を生む。堂々と身元を明かし対象と直接的な関係交流を投じる様子を崩した欠陥は正の循環より負の影響が増す。根本なる見解があるか。虫けらは削減する反応が必要となる。オレオレ詐欺サイバー犯罪という今日的病理が表面化。リスクをとらずにリターンを望む慢性化した不良を生む。技能に偏り、概念や見識を欠き力の暴走に制御が効かない欠陥を広げる。

### 3-11 国家

国家という枠組も生命領域の根本性を不動性に浮かべ、歪な力の依存と支配従属の態度を広げるようであれば領域の不良と解される。適正な範囲に修復させる自然律が働き自他との良性を存続する。大国の横暴について、生命人間の根本律を不動に浮かべ国家という範囲も健全な制御を遂げられる範囲に是正する長期原理が起こる。あらゆる対象は根本性を基礎土台の

基準をもって対象と運用の持続に及ぶ。国家が最終形にならず生命人間の健全に不動性を求める長期観点を生む。

### 3-12 期待と効果、求める利益、評価基準と検証と客観

表面的人付き合いを増すか、内容に重心の増す関係か、技能や権力や財力を利己的に作用させるか、求める利益性の範囲と責務の相関を生む。成長過程に肥満性が強いと過剰な利己性に向けられる。評価性の基準の導出、産出と検証の客観、期待と効果の整合の自律自制的な習慣が進む。期待効果、開放閉鎖、私公、一過持続、移住と定住、流動不動、無形有形、一般個別、全体部分、緩和緊張、動静、



